

コレクション展 2023 - 春
特集：新収蔵 奈良原一高の写真

Narahara Ikko Photographs from New Acquisitions

2023年2月11日(土) - 5月7日(日)



①奈良原一高 壁の中(王国より) 1956-1958年 ©Narahara Ikko Archives

講演会のご案内 2023年2月11日(土) 14時から(13時30分開場)

展覧会初日に、奈良原一高アーカイブズ代表・新美虎夫氏による講演会を開催をします。ぜひ、この機会に取材していただき、魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

 お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎 広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14

T E L : 073-436-8690 F A X : 073-436-1337

E-MAIL : press@momaw.jp W E B : <https://www.momaw.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/moma.wakayama/>

Twitter : https://twitter.com/moma_wakayama



コレクション展 2023 - 春 特集：新収蔵 奈良原一高の写真

和歌山県立近代美術館は、1970（昭和45）年11月、日本で5番目の国公立近代美術館として、和歌山県民文化会館の1階に開館しました。1963（昭和38）年から和歌山城二の丸跡で活動してきた和歌山県立美術館が、博物館と近代美術館に分かれたもので、両館とも、1994（平成6）年に黒川紀章の設計になる現在の建物に移転しました。

当館では和歌山ゆかりの作家を中心に紹介と収集を行い、さらに扱う範囲を国外にも広げて、現在総数1万点を超える作品を収蔵するに至っています。コレクション展では、所蔵品を通じて幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、その紹介を続けています。

「コレクション展2023-春」では、1階展示室AとBの2部屋にて所蔵品を展示します。「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」展（2023年2月4日 - 4月9日）に合わせて、戦後、新しい版画の世界を切り開いたデモクラート美術家協会の系譜に連なる関西の版画家たちの作品をまずご紹介します。続けて春の季節感あふれる日本画や洋画の名品を展示し、さらに近代から現代にかけての美術表現を、彫刻作品を中心にご覧いただきます。

また、奈良原一高（1931 - 2020）の作品を、「新収蔵 奈良原一高の写真」として特集いたします。

特集：新収蔵 奈良原一高の写真

奈良原一高（1931 - 2020）は、戦後日本を代表する写真家の一人です。福岡県大牟田市に生まれ、東京ほか欧米各地を制作の場として活躍しました。

父の転勤に伴い長崎や愛知、鳥取、島根など各地を転々とした奈良原は、早稲田大学大学院在学中の1956（昭和31）年に、個展「人間の土地」でデビューを飾ります。鹿児島島の桜島噴火で埋没した黒神村を写した「火の山の麓」と、長崎にある人工の炭鉱島・端島（軍艦島）を撮影した「緑なき島」の2部作からなるシリーズは、隔絶された限界状況にあって人間が生きることの意味を問いかけた私的なドキュメントとして大きな反響を呼びました。1958（昭和33）年には、「壁の中」「沈黙の園」の2部形式で制作された〈王国〉シリーズを制作。和歌山県の女子刑務所と北海道のトラピスト男子修道院を撮影地に選び、閉ざされた壁のなかでの生活を追うことで、人間心理の深層に迫りました。

「壁の中」（1956 - 58）が和歌山で撮影されたことも縁となり、当館は、2021（令和3）年度から2022（令和4）年度にかけて、楢原恵子氏（奈良原一高アーカイブズ）から、オリジナルプリントを中心にあわせて約200点の寄贈を受け、収蔵することができました。

今回の展示では、〈人間の土地〉、〈王国〉そして、廃墟となった軍需工場を撮影した〈無国籍地〉（1954 - 56）もあわせ、奈良原の1950年代における3つの重要なシリーズから作品95点を紹介します。自らの方法を「パーソナル・ドキュメント」と位置づけ、戦後の写真表現の新たな地平を切り開いた奈良原の作品をあらためて見つめ直す機会としたいと思います。

奈良原一高（1931–2020）

- 1931年 福岡県大牟田市で生まれる。本名・榎原一高。父は佐賀地方裁判所の判事をしていて、父の転任につれて佐賀から久留米、小倉に移る。
- 1934年 父が長崎地裁の判事となり、一家も長崎に移転する。長崎は、生涯忘れられない思い出となる。父の転勤に伴い、愛知県に転居。
- 1945年 終戦直前に毎晩空襲に遭った。敗戦を一宮郊外にある禅寺、東林寺の離れの仮住まいで迎える。
- 1948年 4月、父の転勤に伴い、鳥取に転居。この頃、現像、密着など写真の基礎技術をマスターする。
- 1950年 4月、中央大学法学部に入学。父の勧めに従い、司法官の道に進む。
- 1951年 3月、大学2年の春休み、実家が奈良にあったので、仏像を見て歩く。これを期に法律の道から美術史へ転向する。
- 1954年 3月、中央大学卒業。
4月、早稲田大学大学院芸術専攻（美術史）修士課程に入学。九州周遊の旅に出て、鹿児島県桜島・黒神村と長崎沖合の人口島・端島（通称・軍艦島）の生活に衝撃を受ける。「人間の土地」「無国籍地」の撮影を開始。
- 1955年 4月、新鋭画家グループ「実在者」に客員として参加。池田満寿夫や齋嘔らと交流。
4月、新しいリアリズムを目指したグループ「生活者懇談会」の結成に参加。池田龍男や河原温と交流。
- 1956年 5月、個展「人間の土地」開催（東京・松屋ギャラリー）。
8月、「無国籍地」『photo35』（新日本写真会）掲載。
8月、「王国」の舞台となる和歌山の女子刑務所を訪ねる。
9月、「緑なき島」『アサヒカメラ』（朝日新聞社）掲載。
- 1957年 2月、「廃墟のロマン—無国籍地の連作より—」『ロココール』No.22（ロココールクラブ）掲載。
4月、「無国籍地より—鉄の造型—」『ロココール』No.24（ロココールクラブ）掲載。
5月、「10人の眼」展に出品。美術評論家・福島辰夫、奈良原、細江英公らを中心とした新進気鋭の写真家によるグループ展。
5月、「人間の土地」『中央公論』（中央公論社）に掲載。
- 1958年 6月、「王国」のために北海道トラピスト修道院と和歌山の女子刑務所を、7月にかけて集中的に撮影。
9月、「王国」『中央公論』（中央公論社）に掲載。
個展「王国」（東京、大阪・富士フォトサロン、9日–15日）第2回写真批評家協会新人賞受賞。
- 1959年 5月25日、川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、細江英公とともに自主運営による写真エージェンシー「VIVO」を結成。
10月、第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞。
早稲田大学大学院修士課程修了。
- 1964年 初めてヴェネツィアを訪れ、神秘的な都市の姿に魅了される。
- 1965年 アメリカ・ニューヨークを経由してヨーロッパから帰国。
- 1966年 4月、東京造形大学の教授に就任。
『カメラ毎日』（毎日新聞社）に日本の伝統文化をテーマにしたシリーズ「日本圓譜」を連載。
- 1967年 5月、写真集『ヨーロッパ・静止した時間』（鹿島研究所出版会）を刊行。
同写真集が第11回写真批評家協会作家賞受賞。
- 1970年 2月、写真集『ジャパネスク』（毎日新聞社）を刊行。
春、渡米しニューヨークを中心に4年間滞在（–1974年）。滞在中、ダイアン・アーバスのワークショップへ通う。2度のアメリカ大陸横断旅行。
- 1975年 写真集『消滅した時間』（朝日新聞社）刊行。
- 1980年 個展「ベネチアの光」（東京・新宿ニコンサロン、大阪ニコンサロン）。
- 1985年 7月、写真集『ヴェネツィアの夜』（岩波書店）刊行。
個展「光と闇・二つの世界」（韓国・ソウル・ウォーカーヒル美術館）。
- 1986年 『ヴェネツィアの夜』が第33回日本写真協会年度賞受賞。
- 1987年 5月、『ヴェネツィアの夜』（流行通信）刊行。
- 1996年 紫綬褒章受章。
- 1999年 九州産業大学大学院教授に就任（–2005年）。
- 2004年 5月、個展「奈良原一高 時空の鏡—シンクロシティ」（東京・東京都写真美術館）。
- 2005年 日本写真家協会賞功労賞受賞。
- 2006年 奈良原一高アーカイブズを設立。旭日小綬章受章。
- 2020年 逝去。

参考：

- 『奈良原一高 手のひらの空 1954–2004』（島根県立美術館、2010年） 蔦谷典子編「奈良原一高年譜」
『奈良原一高 王国』（東京国立近代美術館、2014–2015年）
『奈良原一高 「無国籍地」/「人間の土地」 [解説・作品リスト]』（福岡市美術館、2022年）

開催概要

- 主催 和歌山県立近代美術館
- 会場 和歌山県立近代美術館 1階展示室
- 会期 2023年2月11日(土) - 5月7日(日)
- 開館時間 9時30分 - 17時 (入場は16時30分まで)
- 休館日 月曜日
- 観覧料 一般350(270)円、大学生240(180)円 ()内は20名以上の団体料金
*高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料
*第1日曜日(3月5日、4月2日、5月7日)は無料
*第4土曜日(2月25日、3月25日、4月22日)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

関連事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容の変更、事業の中止を行う場合があります。
変更があった場合は、美術館のウェブサイトでお知らせします。

▶ 講演会 「写真家 奈良原一高の誕生した瞬間」より

講師：新美虎夫(奈良原一高アーカイブズ代表)

日時：2月11日(土) 14時 - 15時30分(13時30分開場) *2階ホールにて、参加無料

▶ 講演会 壁 奈良原一高「人間の土地」から「王国」へ

講師：蔦谷典子(島根県立美術館主任学芸員)

日時：3月19日(日) 14時 - 15時30分(13時30分開場) *2階ホールにて、参加無料

▶ フロアレクチャー (学芸員による展示解説)

日時：3月11日(土)、4月8日(土) 14時 - *1階展示室にて、要観覧券

同時期に開催の展覧会

▶ 特別展 「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」

会期：2月4日(土) - 4月9日(日)

▶ 県立博物館 (となり) の展覧会

企画展 「戦いの記憶」

会期：1月28日(土) - 3月5日(日)

企画展 「川とともに生きる - 川と人の関係史 -」

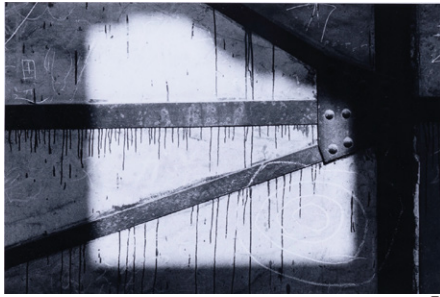
会期：3月11日(土) - 4月16日(日)

主な出品作品

掲載用画像については広報担当にお問合わせください。
*文字のせ、トリミング等をご遠慮ください。*すべて和歌山県立近代美術館蔵です。



②



③

②③奈良原一高 〈無国籍地〉より 1954-1956年 ©Narahara Ikko Archives

④奈良原一高 火の山の麓 黒神村：破れた野良(〈人間の土地〉より) 1954-1957年 ©Narahara Ikko Archives

⑤奈良原一高 火の山の麓 黒神村：埋もれた鳥居(〈人間の土地〉より) 1954-1957年 ©Narahara Ikko Archives

⑥奈良原一高 緑なき島 軍艦島：岸壁(〈人間の土地〉より) 1954-1957年 ©Narahara Ikko Archives

⑦奈良原一高 緑なき島 軍艦島：地下道(〈人間の土地〉より) 1954-1957年 ©Narahara Ikko Archives

⑧⑨⑩奈良原一高 壁の中(〈王国〉より) 1956-1958年 ©Narahara Ikko Archives

⑪⑫⑬⑭奈良原一高 沈黙の園(〈王国〉より) 1958年 ©Narahara Ikko Archives

画像掲載の際は必ず ©Narahara Ikko Archives をご記載ください。



④



⑤



⑥



⑦



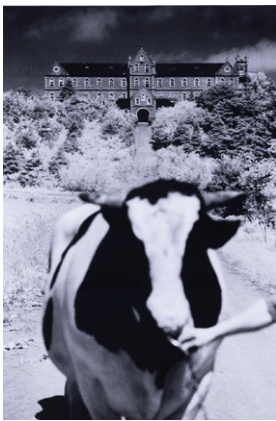
⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭